

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：農林水產業費 項：林業費 目：森林整備費

事業名【新】花粉症対策用採種園造成事業費（R7国補正）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 木質バイオマス産業係 電話番号：058-272-1111（内4386）

E-mail : c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 **35,232 千円** **(現計予算額 :** **0 千円)**

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
現計予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補正要求額	35,232	35,232	0	0	0	0	0	0	0
決定額	35,232	35,232	0	0	0	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

令和5年10月に取りまとめられた「花粉症対策初期集中対応パッケージ」で花粉の少ない苗木の生産拡大が盛り込まれ、花粉の少ないスギ苗木が日本全体のスギ苗木の年間生産量に占める割合を令和15年までに現在の5割から9割以上に引き上げることが目標とされた。

岐阜県内には植栽に必要な種子及び苗木の生産・供給を行っている3箇所の林木育種事業地があり、令和6年度は3箇所で69kgの種子を生産した。

しかし、その中で花粉の少ない種子の生産量は19kgであり、種子総生産量の3割にとどまっているため、新たに採種園を造成し、花粉の少ない苗木の生産に必要な種子を確保しなければならない。

(2) 事業内容

採種園造成計画をもとに、国補正予算を活用し育種事業地で花粉の少ない系統の採種園を新たに造成する。

○採種園の造成（最終目標）

- ・3か所（白鳥、下呂、東濃）の県林木育種事業地での新規採種園数
34か所
- ・県内のスギ種子総生産量における花粉の少ないスギの種子生産量が占める割合
9割
- ・事業費負担：（国庫）35,232千円（上限：定額75万円/母樹50本）

(3) 類似事業の有無

- ・林木育種事業地管理運営事業費

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事請負費	35,232	採取園の造成
合計	35,232	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画において、(1) 森林づくりの推進で苗木生産量の目標数値を設定している。

(2) 国・他県の状況

採種園を有する多くの県においても、直営や外部委託により採種園を造成している。

(3) 後年度の財政負担

計画的に採種園を造成する必要があるため、継続的に必要

(4) 事業主体及びその妥当性

- 1) 事業主体：県
- 2) 妥当性：林業種苗法第3条に、県は優良な種穂の供給を図ることとある。

事 業 評 價 調 書 (県単独補助金除く)

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

令和7年度3月補正予算

(事業目標)

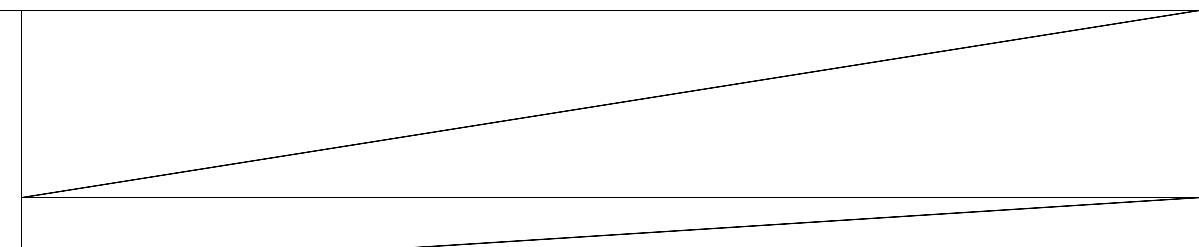
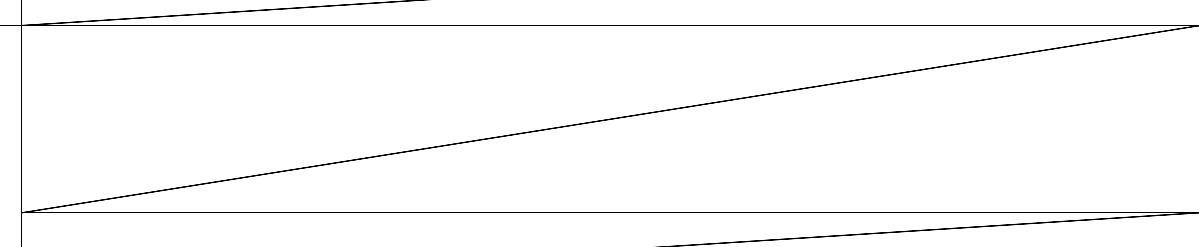
- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・県内の花粉の少ない苗木の割合を増加させられるよう、花粉の少ない種子を生産する採種園を新しく造成する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R4)	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標	終期目標 (R15)	達成率
①新規造成箇所数（か所）	0	1	2	4	34	100%
②花粉の少ないスギ種子割合（割）	2	3	3	5	9	75%

○指標を設定することができない場合の理由

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	
令和5年度	
令和6年度	<p>花粉の少ない種子の更なる増産に向け、ミニチュア採種園の造成を行った。 R8年度から特定母樹スギの種子生産が始まるため、花粉の少ない種子の生産量及び割合が増加する見込みである。</p> <p>指標① 目標：2箇所 実績：2箇所 達成率：100 % 指標② 目標：4割 実績：3割 達成率：75 %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	・「花粉症対策初期集中対応パッケージ」に掲げられた指標の達成のほか、スギ人工林の植替えを重点的に進めることとしている。植替えに必要な苗木の確保に直結する種子生産の対策となる本事業の必要性は十分に高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	(評価) 2 花粉の少ない種子の増産に向け、ミニチュア採種園を造成することができた。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	(評価) 1 目標達成に向けて新たに採種園整備計画を作成し、毎年の事業実施量及び今後の採種予定量を明確化することで、事業の効率化が図られている。

(今後の課題)

- ・事業が直面する課題や改善が必要な事項
- ・安定供給に向けた採種園の維持管理

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

花粉症は社会的に大きな問題であるため、県民からのニーズは高くなっている。対策に直結する当事業は継続的な実施が必要であり、目標に向け生産の拡大に努めなければならないが、その種子を優良な状態で安定的に供給するための管理も並行して取り組む必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	